

報道機関各位

一般財団法人 とうほう地域総合研究所  
理事長 矢吹 光一

## 「今年はこうなる！2022年の景気見通し」 ～県内の企業経営者へのアンケート調査結果について～

2022年を迎えるにあたり、当研究所では毎年恒例の「景気見通しアンケート」を福島県内の主要企業経営者にお願ひし、71社から回答を得ました。今般、アンケート結果についてとりまとめましたので、お知らせいたします(アンケート時期：2021年11月)。

なお、詳細は本日発行の当研究所機関誌「福島の進路」2022年1月号及び当研究所ホームページに掲載いたします(福島の進路 調査レポート)で検索、または右のQRコードをご利用ください。



記

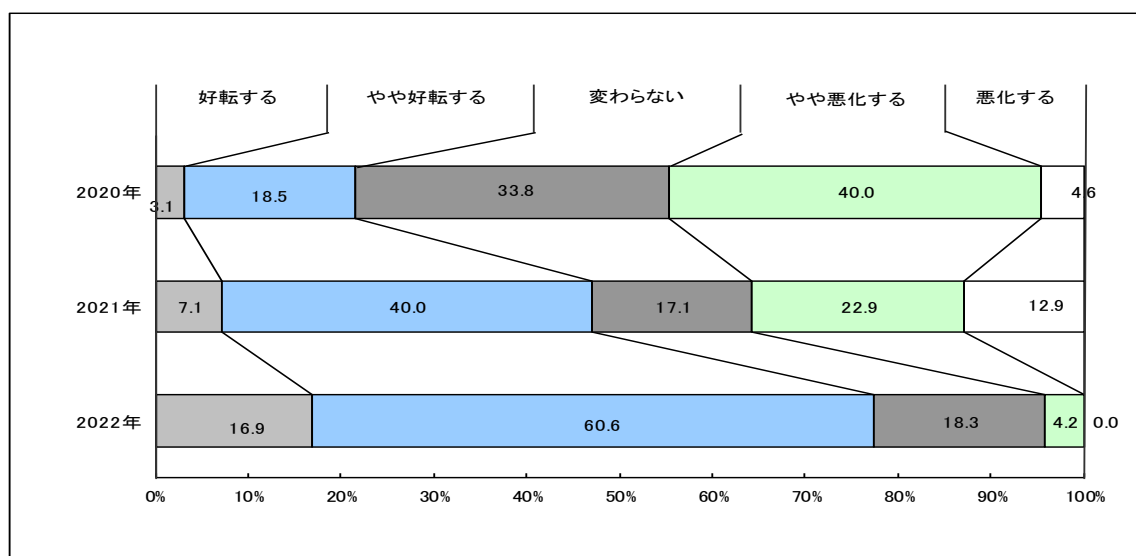
### 1. 国内景気の見通し

Q. 2022年の「国内景気」について、2021年と比べてどのように判断しますか？

～良化する予想が大幅に増加～

	2020年	2021年 (a)	2022年 (b)	前年比増減 (b)-(a)
好転する・やや好転する	21.5%	47.1%	77.5%	30.3 ㊦
変わらない	33.8%	17.1%	18.3%	1.2 ㊦
やや悪化する・悪化する	44.6%	35.7%	4.2%	△31.5 ㊦

※小数点第二位を四捨五入しているため、前年比増減が合致しない場合や下記図表と一致しない場合あり(以下同)



「好転する・やや好転する」が77.5%(前回比+30.3 ㊦)と大幅に増加する一方、「変わらない」は18.3%(同+1.2 ㊦)でほぼ横ばい、「やや悪化する・悪化する」が4.2%(同△31.5 ㊦)と大幅に減少した。

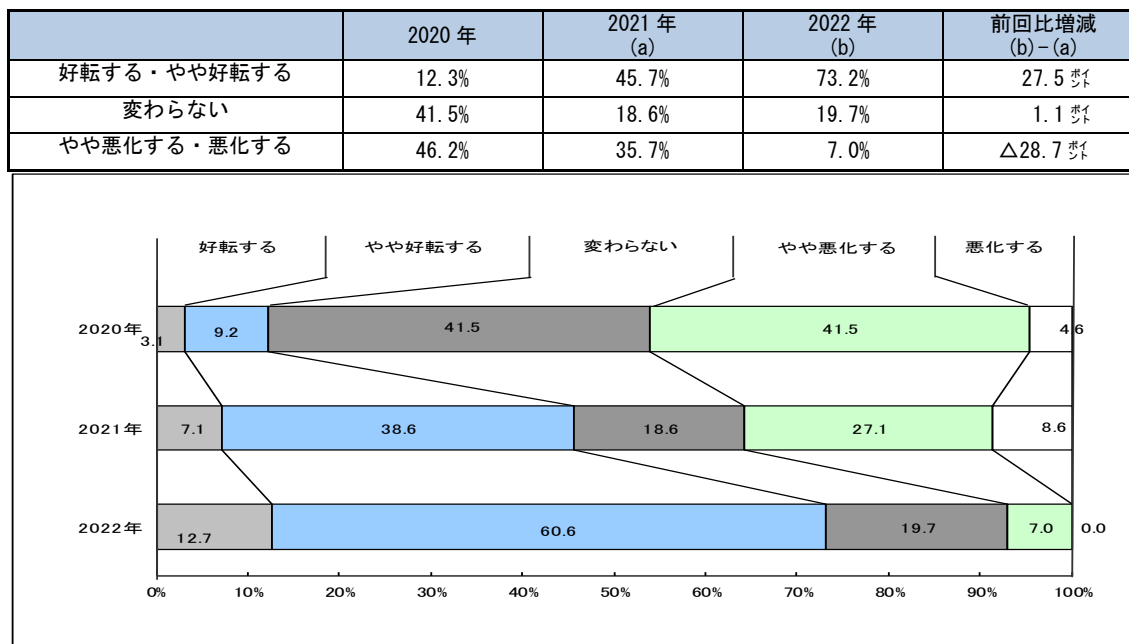
前回の2021年アンケート(実施時期:2020年11月)では、「GO TO キャンペーン」など政府の景気回復策等により一部持ち直しの動きがみられたものの、新型コロナウイルス感染症の収束は不透明な状況であり、2022年アンケートに比較して「やや悪化する・悪化する」が多かったが、今回の2022年アンケートは、ワクチンの接種率が7割を超え感染力の強いデルタ株による第5波が沈静化した時期に実施しており、景気が良化するとの見通しが大幅に増加したものと思われる。

なお、新型コロナウイルス感染症が表面化する前に実施した前々回の2020年アンケート(実施時期2019年11月)において「やや悪化する・悪化する」が44.6%と、2021年アンケートよりも多くなっているが、これはアンケート実施時期が消費税増税(2019年10月1日:8%→10%)や、県内にも甚大な被害をもたらした台風19号(同年10月12日)直後で、その影響などが強く出たものと思われる。

## 2. 県内景気の見通し

Q.2022年の「県内景気」について、2021年と比べてどのように判断しますか?

～国内景気と同様、良化する予想が大幅に増加～



県内景気の見通しについては「好転する・やや好転する」が73.2%(前回比+27.5 ㊦)の大幅増加となり、「変わらない」は19.7%(同+1.1 ㊦)で横ばい、「やや悪化する・悪化する」については7.0%(同△28.7 ㊦)と大幅に減少した。

国内景気と同様、ワクチンの接種率が7割を超え感染力の強いデルタ株による第5波が沈静化したことから、良化するとの見通しが大幅に増加したものと思われる。

以上

本件に関するお問い合わせ先  
 とうほう地域総合研究所 担当:鈴木  
 TEL 024(523)3171